（別紙）　　出典：農林水産省 HP

ミカンコミバエ種群とは

ミカンコミバエ種群は、ミカンコミバエ等の形態的に酷似した種の総称であり、体長７mm位の小型のハエの一種で、カンキツ類等の生果実の大害虫として知られている。

【世界における発生地域】
中国、東南アジア、ハワイ等

【主な寄主植物】
カンキツ類、モモ、ビワ、トマト、マンゴウ等の生果実

【被害状況】
幼虫が果実に寄生すると腐敗・落下し、ひどい場合には収穫皆無となる。

【我が国の状況】
１　大正８年に沖縄本島で最初に発見。
２　南西諸島及び小笠原諸島にのみ発生していたことから、本土への侵入・まん延を防止するため、植物防疫法に基づき寄主植物の国内移動を規制する一方、昭和43年から根絶事業を開始し、昭和61年に根絶を達成。現在は発生が無い。
３　植物防疫法により、既発生地域からの寄主植物の輸入を禁止。

【防除方法】
雄除去法（誘引剤及び殺虫剤を染み込ませたテックス板を散布することによる防除方法）

成虫

幼虫

テックス板※

※　沖縄県病害虫防除技術センターHPより引用